
国際会議の開催効果 に関する調査

令和6年3月

国土交通省 観光庁

目次

1. はじめに	3
2. 国際会議の誘致・開催までの流れ	5
3. 国際会議の開催効果の分類	7
4. 効果の対象別レガシー効果	14
5. 各地方都市の代表的な国際会議開催効果のエピソード	25

はじめに

国際会議の開催は、訪日外国人旅客の増大、経済効果、地域の国際化・活性化等に大きな意味を持つことが期待されており、観光庁は、その振興に積極的に取り組んでいます。今後、国際会議の主催者やコンベンションビューロー(以下、CB)、都市、関連事業者等が協働し、地域における国際会議の誘致・開催によって地域活性化の実現が期待されます。

これまで観光庁では、国際会議の開催によるメリットとして、経済波及効果やそれ以外の効果を得られることを挙げ、様々な効果についてまとめておりました。一方でそれらは具体的な開催事例による効果にフォーカスしていなかったため、特に地方都市において気運醸成につながってはいないのではないかと懸念があります。

観光庁では、このような流れを踏まえ、地方で開催された国際会議の効果について整理し、より具体的な内容を掲示する必要があると考え、本資料を作成いたしました。

本資料によって、国際会議開催による効果が具体的にイメージ可能となり、国際会議開催の気運醸成がなされることによって各地の誘致・開催活動の一助となることを期待しております。





目次

1. はじめに	3
2. 国際会議の誘致・開催までの流れ	5
3. 国際会議の開催効果の分類	7
4. 効果の対象別レガシー効果	14
5. 各地方都市の代表的な国際会議開催効果のエピソード	25

国際会議開催による効果を体系的に把握し、都市の戦略と紐づけた案件の誘致につなげていただくことが本書の位置づけ

国際会議に係る戦略策定から誘致・開催までの流れ

本書のスコープ

	1. 都市の戦略策定	2. 重点領域の選定	3. 具体的案件の選定・誘致	4. 開催効果の享受
概要	<ul style="list-style-type: none">都市内の国際会議開催による目標開催件数・消費額・達成期限を決定都市として目指すべき姿を決定 	<ul style="list-style-type: none">都市の戦略や、業界・学術分野などの強みに基づいた、誘致すべき国際会議の重点領域を選定 	<ul style="list-style-type: none">重点領域内の国際会議を把握し、誘致すべき案件を選定主催者に働きかけ、誘致活動を実施 	<ul style="list-style-type: none">都市内で国際会議を開催し、国内外から定量的・定性的な効果を享受 
具体例	<ul style="list-style-type: none">ICCA基準で2026年の目標開催件数5件MICEに係るサステナビリティの促進	<ul style="list-style-type: none">都市内の風力発電を活かし、風力分野にフォーカス大学の強みを活かし、電磁気分野にフォーカス	<ul style="list-style-type: none">過去の開催実績・今後開催予定の国際会議を調査主催者向けに視察ツアーを実施	<ul style="list-style-type: none">国際会議開催により、100億円の経済効果が発生開催により、国内外でブランド力が向上

目次

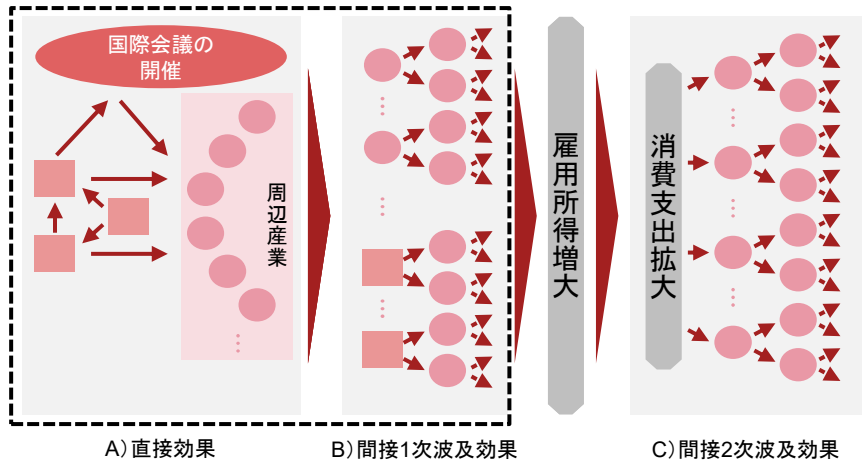
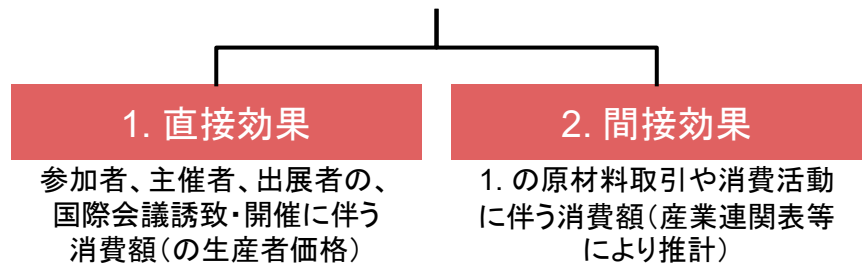
1. はじめに	3
2. 国際会議の誘致・開催までの流れ	5
3. 国際会議の開催効果の分類	7
4. 効果の対象別レガシー効果	14
5. 各地方都市の代表的な国際会議開催効果のエピソード	25

国際会議の開催による効果は経済波及効果(直接・間接効果)と、それ以外の効果(レガシー効果)が存在する

国際会議開催による効果分類

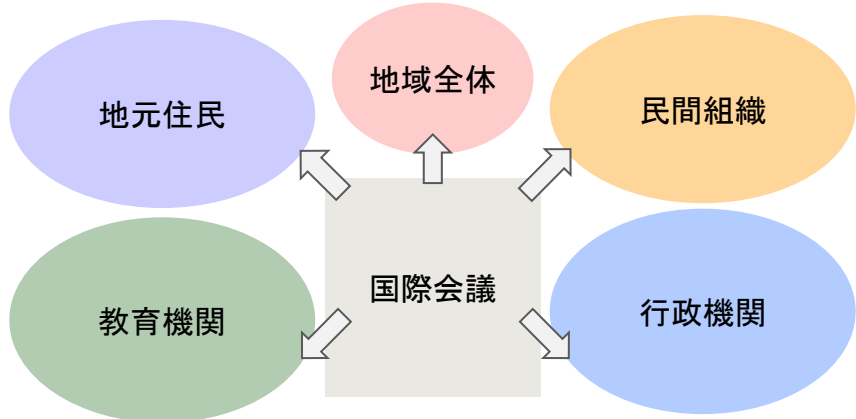
経済波及効果

国際会議誘致・開催に伴う消費効果



レガシー効果

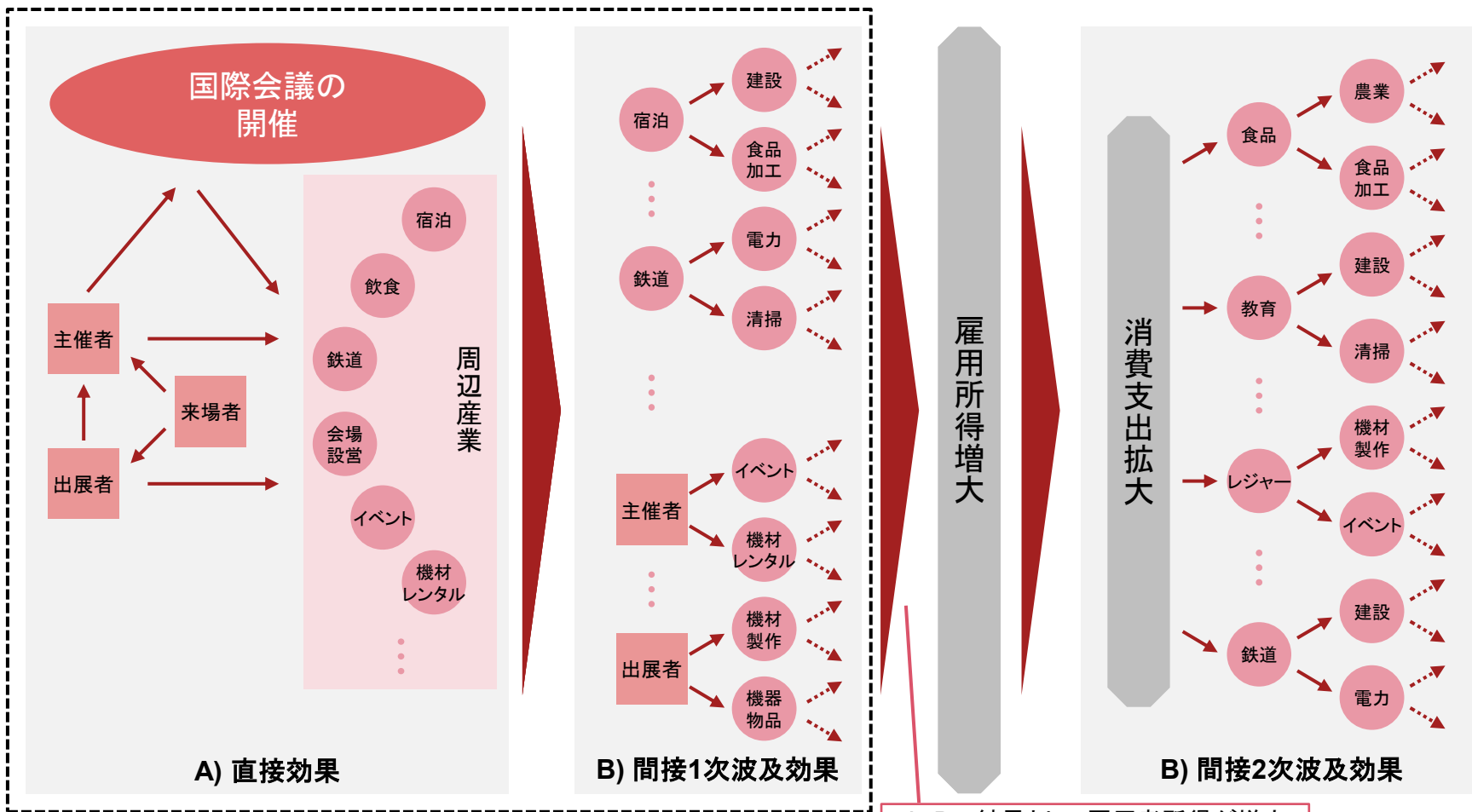
国際会議の誘致・開催に伴い、開催地域全体や地域の各ステークホルダーに対して長期的にもたらされる、経済波及効果以外の効果



各ステークホルダーに対して国内外における効果が見込まれる

経済波及効果は、まず周辺産業に及ぼす直接効果と、それによって更に生み出される間接効果から成る

国際会議による経済波及効果のフロー



国際会議は、国内会議と比べて高い経済波及効果をもたらす

		経済波及効果 (単位:百万円)		就業効果 (単位:人・日)		税収効果 (単位:百万円)	
		国際会議	※国内会議	国際会議	※国内会議	国際会議	※国内会議
事例1) 医学系学会 開催地:横浜市(4日間) 参加者:3,588名(海外2,223名)	全国	1,702	1,058	40,028	24,828	61	38
	神奈川県	512	345	14,686	9,462	9	6
	横浜市	464	316	11,929	7,706	8	5
事例2) 技術系年次例会 開催地:京都市(7日間) 参加者:1,367名(海外959名)	全国	1,150	851	27,418	19,767	43	32
	京都府	439	352	13,561	10,343	6	5
	京都市	374	295	11,779	8,884	4	4
事例3) 科学系国際会議 開催地:奈良市(6日間) 参加者:403名(海外218名)	全国	295	238	6,925	5,493	7	5
	奈良県	99	81	3,299	2,583	1	1
	奈良市	82	66	2,815	2,175	1	1
事例4) 医学系学会 開催地:福岡市(5日間) 参加者:3,217名(海外1,886名)	全国	1,877	1,418	45,287	33,315	55	42
	福岡県	947	758	28,258	21,453	13	10
	福岡市	793	625	16,978	12,063	8	7

※過去に開催された国際会議をモデルに、想定条件(日系エアライン利用率:21~40%、前泊/後泊:どちらか1泊)を設定し、『MICE簡易測定モデル』により試算。

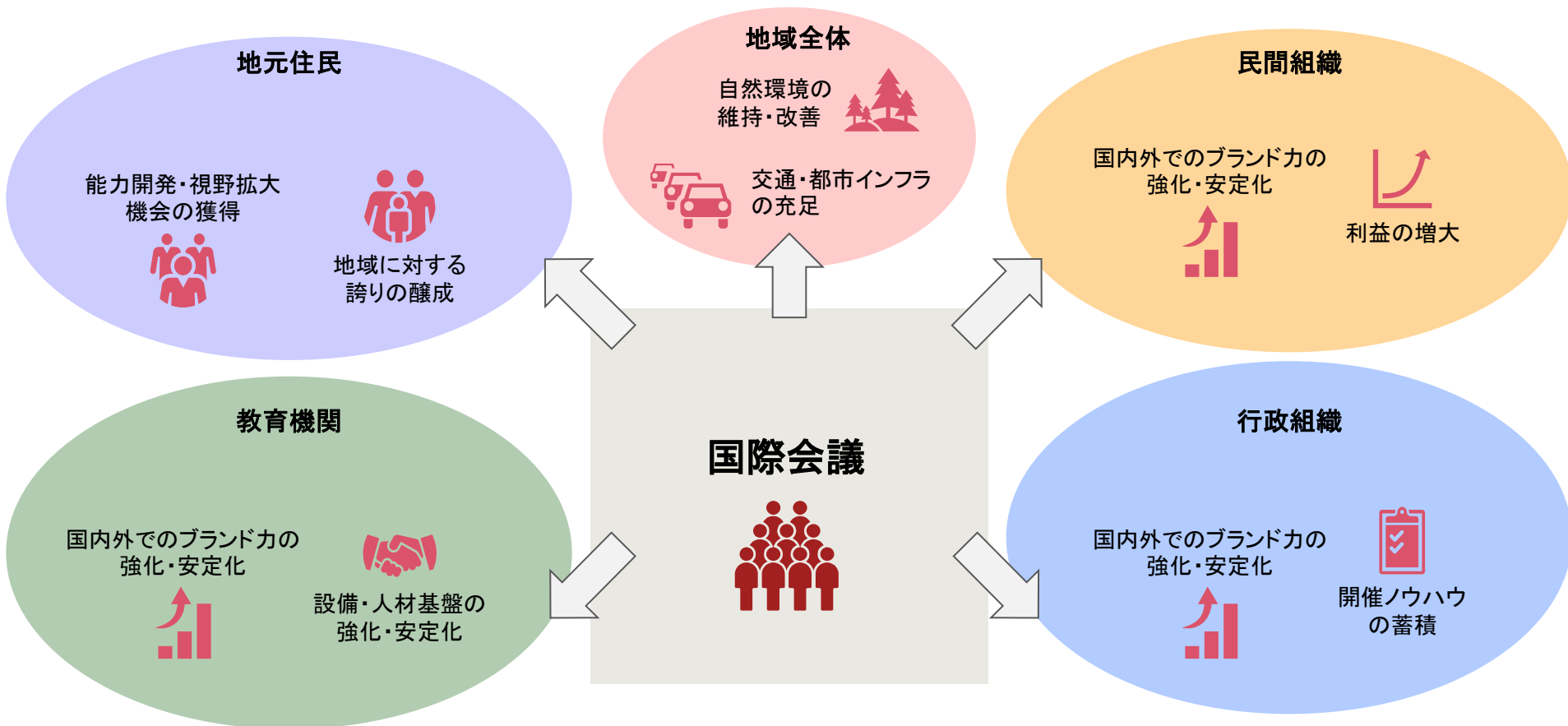
※国内参加者の日帰り(自宅等から毎日会場へ移動)の割合を下記の通り仮定。

事例1)50%、事例2)25%、事例3)12%、事例4)30%

※国内会議の試算は、国際会議と国内会議の経済効果の違いを比較するため、事例となる国際会議と同じ総参加者数で全員が国内居住者(日帰り参加者の割合は上記と同様)と仮定して算出。

レガシー効果は地域全体・ステークホルダーに対して様々な効果をもたらす

国際会議開催によるレガシー効果一覧



レガシー効果について、地域全体や各団体、個人等の対象別に要素をまとめた

レガシー効果の対象別分類一覧

効果の対象	#	効果	効果の内容
A. 地域全体	A-1	自然環境の維持・改善	開催を機に道路や街頭の植栽整備や環境保全が進むことで、自然環境が改善される
	A-2	交通・都市インフラの充足	開催に向けて電車の本数の増加や道路の整備等により、インフラが向上する
	A-3	地元産業の活性化	開催を機に特定の地元の産業が成長し、経済活動が活発になる
B. 民間組織	B-1	知名度・ブランドの強化・安定化	開催分野に紐づいた国内外における知名度・ブランドの強化が発生
	B-2	設備・人材基盤の強化・安定化	施設や設備が整備・修復される。人材のスキルや知識が向上、人材の発掘・採用につながる
	B-3	利益の増大	特定の企業の売上・収入が向上したり、経営・運営・調達コストが削減する
C. 教育機関	C-1	知名度・ブランドの強化・安定化	開催分野に紐づいた国内外における知名度・ブランドの強化が発生
	C-2	設備・人材基盤の強化・安定化	施設や設備が整備・修復される。人材のスキルや知識が向上、人材の発掘・採用につながる
D. 行政機関	D-1	知名度・ブランドの強化・安定化	開催分野に紐づいた国内外における知名度・ブランドの強化が発生
	D-2	誘致・開催のノウハウ蓄積	誘致・開催にあたってのノウハウを学び、今後の誘致・開催につながる
E. 地元住民	E-1	能力開発・視野拡大機会の獲得	関連分野に関するスキルが向上したり、新しい考えや視点を獲得する
	E-2	能力活用機会の獲得	準備活動やイベントに関与することで、持っている能力を発揮する機会を獲得する
	E-3	地域に対する誇りの醸成	開催の事実や、関連活動への参加を通じて、地域や社会に対する誇りが醸成される

学術系の国際会議では主に、能力開発・視野拡大機会の獲得に大きな効果が得られる

レガシー効果事例対応表(1/2)

レガシー効果			国際会議事例							
効果の対象	#	効果	学術系							
			①第5回国際野生動物管理学術会議	②第30回世界牛病学会	③第34回国際電波科学連合総会	④磁気工学国際会議	⑤IBA & PIXE 2023	⑥CMD2022	⑦Global Offshore Wind Summit Japan	
A. 地域全体	A-1	自然環境の維持・改善	✓							
	A-2	交通・都市インフラの充足								
	A-3	地元産業の活性化				✓				✓
B. 民間組織	B-1	知名度・ブランドの強化・安定化	✓	✓					✓	✓
	B-2	設備・人材基盤の強化・安定化						✓		✓
	B-3	利益の増大					✓			
C. 教育機関	C-1	知名度・ブランドの強化・安定化				✓				
	C-2	設備・人材基盤の強化・安定化			✓	✓				
D. 行政機関	D-1	知名度・ブランドの強化・安定化								
	D-2	誘致・開催のノウハウ蓄積				✓				
E. 地元住民	E-1	能力開発・視野拡大機会の獲得	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
	E-2	能力活用機会の獲得				✓	✓			
	E-3	地域に対する誇りの醸成					✓			✓

政府系のMICEでは主に、民間組織・行政機関の知名度・ブランドに大きな効果が得られる

レガシー効果事例対応表(2/2)

レガシー効果			国際会議事例				
効果の対象	#	効果	政府系			その他	
			⑧G7仙台科学技術大臣会合	⑨G7茨城・つくば科学技術大臣会合	⑩G20茨城・つくば貿易・デジタル経済大臣会合	⑪G7香川・高松都市大臣会合	⑫第11回アジア太平洋盆栽水石大会
A. 地域全体	A-1	自然環境の維持・改善					
	A-2	交通・都市インフラの充足	✓	✓		✓	
	A-3	地元産業の活性化					✓
B. 民間組織	B-1	知名度・ブランドの強化・安定化	✓		✓	✓	✓
	B-2	設備・人材基盤の強化・安定化		✓			
	B-3	利益の増大			✓		
C. 教育機関	C-1	知名度・ブランドの強化・安定化					
	C-2	設備・人材基盤の強化・安定化					
D. 行政機関	D-1	知名度・ブランドの強化・安定化	✓	✓	✓	✓	
	D-2	誘致・開催のノウハウ蓄積					✓
E. 地元住民	E-1	能力開発・視野拡大機会の獲得	✓	✓		✓	✓
	E-2	能力活用機会の獲得	✓	✓	✓		
	E-3	地域に対する誇りの醸成					✓

目次

1. はじめに	3
2. 国際会議の誘致・開催までの流れ	5
3. 国際会議の開催効果の分類	7
4. 効果の対象別レガシー効果	14
5. 各地方都市の代表的な国際会議開催効果のエピソード	25

A. 地域全体に対する効果の詳細

A-1. 自然環境の 維持・改善

開催を機に道路や街頭の植栽整備や環境保全に対する取り組みが推進されることで、自然環境が改善される

例: 会議に関連して自然環境を保全する協定の締結 等

A-2. 交通・都市インフラの 充足

開催に向けて電車の本数の増加を実施。あるいは道路や看板、該当を整備することにより、交通・都市のインフラが向上する

例: 会場周辺の整備、運行ルートの変更 等

A-3. 地元産業の活性化

開催を機に、特定の地元の産業がその地を代表する産業へと成長し、様々なステークホルダーや地域住民など地域全体を巻き込む形で経済活動が活発になる

例: 第三者からサポートを受け売上向上を促進、新規参入企業が増加 等

A. 地域全体に対する効果の具体的なエピソード

A-1. 自然環境の 維持・改善

【第5回国際野生動物管理学術会議(札幌市)】

- 酪農学園大学と札幌市、及び北海道が、『生物多様性の政策提案に関する協定』を締結
- 協定により、**外来種対策や野生動物管理に関する研究活動が市(環境局)の政策に展開**され、継続中である



↑ 協定締結の様子

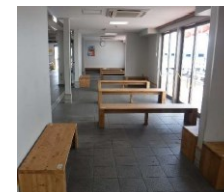
A-2. 交通・都市インフラの 充足

【G7仙台科学技術大臣会合(仙台市)】

- 会場周辺及び通行ルート上の**道路の支障木伐採、道路舗装・区画線明示工事**を行った

【G7香川・高松都市大臣会合(高松市)】

- 高松港フェリー乗り場待合所等のベンチの更新、キッチンレーラーを利用したカフェの設置等を行った



↑ リニューアルしたベンチ

A-3. 地元産業の活性化

【第11回アジア太平洋盆栽水石大会(高松市)】

- JETROが高松盆栽の輸出拡大に向けた**地元生産者向け商談会を定期的**に開催し、**海外販路開拓**に取り組む
- 2013年には高松盆栽輸出振興会を設立し、海外ニーズに対応することで、販路を拡大

【Global Offshore Wind Summit Japan 2023(北九州市)】

- 地元の**中小企業に新規参入を促し、洋上風力発電の産業集積**を進める

B. 民間組織に対する効果の詳細

B-1. 知名度・ブランドの 強化・安定化

イベントに参加した民間組織が、開催分野に関連づいた強みをアピールすることによって、国内外の特定の領域・分野における知名度やブランド力が向上する

例: ツアーによる特産品の宣伝、展示による技術力アピール 等

B-2. 設備・人材基盤の 強化・安定化

開催を機に組織の持つ設備が整備・修復される。あるいは、組織内の人材のスキルや知識が開催分野に関して向上、または人材の発掘・採用につながる

例: 会場・ホテルの部屋の改修、新たな機器の開発 等

B-3. 利益の増大

開催時・開催後に特定の企業の売上・収入が向上する。あるいは、経営・運営・調達コストが削減する

例: 会合での提供が宣伝となり売上が増加 等

B. 民間組織に対する効果の具体的なエピソード

B-1. 知名度・ブランドの 強化・安定化

【G7香川・高松都市大臣会合(高松市)】

- ・ 歓迎レセプションを実施した際に**県産食材を使用した料理、お酒などを提供し、国内外からの参加者に魅力を伝えた**

【Global Offshore Wind Summit Japan 2023(北九州市)】

- ・ 地元企業の高度な技術を用いた金の「しおり」を配布。**技術力をアピールでき、事務局に対して問い合わせがくる程、関心度が高かった**



↑ 歓迎レセプションの様子

B-2. 設備・人材基盤の 強化・安定化

【G7茨城・つくば科学技術大臣会合(つくば市)】

- ・ 一部県の補助を受け、市内のホテル・旅館(ホテル日航つくば・ホテルグランド東雲など)のスイートルーム・貴賓室整備(計8室)を行った

【CMD2022(北九州市)】

- ・ 出展した地元企業は、主催者である小迫先生に多くのアポイントを取り、**アドバイスを活かして企業の持つ課題解決・機器の開発**をしている

B-3. 利益の増大

【G20茨城つくば貿易・デジタル経済大臣会合(つくば市)】

- ・ 浦里酒造店が、**大臣会合に出品したことをPRに用いて販売**している
- ・ 稲葉酒造が海外への輸出を始め、**様々な賞を受賞して売上が向上**している

【IBA & PIXE 2023(富山市)】

- ・ デパートに参加者向けのクーポンを提供いただき、**飲食すると特典を得られるようにすることで売上が伸ばした**



↑ 稲葉酒造が獲得した賞の一部

C. 教育機関に対する効果の詳細

C-1. 知名度・ブランドの 強化・安定化

イベントに参加した教育機関に対し、開催分野に関連づいたイメージが醸成され、国内外の特定の領域・分野における知名度やブランド力が向上する

例: 分野に関連したコミュニティ内での知名度が向上 等

C-2. 設備・人材基盤の 強化・安定化

開催を機に組織の持つ設備が整備・修復される。あるいは、組織内の人材のスキルや知識が開催分野に関して向上、または人材の発掘・採用につながる

例: 委員会への先生の招集、学会で優秀な学生をリクルート 等

C. 教育機関に対する効果の具体的なエピソード

C-1. 知名度・ブランドの 強化・安定化

【磁気工学国際会議 (INTERMAG) (仙台市)】

- 本会議の前に、特定のトピックの研究成果を議論するコミュニティが、**新たにサテライトシンポジウム「集積磁気工学に関する国際会議 (iSIM 2023)」を開催した**
- 上記は今後も継続予定である

C-2. 設備・人材基盤の 強化・安定化

【磁気工学国際会議 (INTERMAG) (仙台市)】

- 本会議で**実行委員長をされた高梨弘毅教授をはじめ、関与した先生方の国際的なプレゼンスが向上し、次回開催地決定の委員会 (AdHoc委員会) に招待された**

D. 行政機関に対する効果の詳細

D-1. 知名度・ブランドの 強化・安定化

イベントに関与した行政機関に対し、開催分野に関連づいたイメージが醸成され、国内外の特定の領域・分野における知名度やブランド力が向上する

例: 会合の開催地であることをPRし知名度が向上 等

D-2. 誘致・開催の ノウハウ蓄積

誘致・開催にあたって、官民での連携や主催者へのアプローチ方法等に関するノウハウを学び、今後の誘致・開催につながる

例: ひとつの国際会議の誘致・開催により関連分野の別の会議を誘致 等

D. 行政機関に対する効果の具体的なエピソード

D-1.
知名度・ブランドの
強化・安定化

【G20茨城つくば貿易・デジタル経済大臣会合(つくば市)】

- 後の国際会議(Tsukuba Conference 2023)のHP上で、つくば市がG7、G20の開催地であることを国内外に対して発信している

筑波研究学園都市
筑波研究学園都市はつくば市は、国の研究・教育機関をはじめ、およそ200の民間の研究機関・企業等が立地し、約2万人の研究員を有する我が国最大の研究開発拠点であり、世界的な科学技術振興の中心です。
2016年のG20首脳会合(つくば科学技術国際会議)以来、2017年のG20外相会合(つくば貿易・デジタル経済大臣会合)の開催地にもなりました。2023年のG7・G20外相会合(筑波研究学園都市)の開催地として決定され、最先端技術にサービスを提供する取り組みを筑波研究学園都市全体で進めています。
また、つくば市は、世界の主要な科学技術機関が国際的なパートナーである、G7・G20のG7+G20の「つくば」の一環でもあり、2023年に開催のG7・G20外相会合(つくば)が開催されました。

↑ Tsukuba Conference 2023のHP上でのPR

D-2.
誘致・開催の
ノウハウ蓄積

【第11回アジア太平洋盆栽水石大会(高松市)】

- 埼玉での**盆栽の世界大会(第8回世界盆栽大会inさいたま2017)**の誘致のきっかけに繋がる

↑ さいたまでの盆栽大会の様子

E. 地元住民に対する効果の詳細

E-1. 能力開発・視野拡大 機会の獲得

国際会議の開催により、当該会議のテーマに関連した分野に関するスキルが向上したり、新しい考えや視点が獲得できる

例: 関連分野の学会の開催、分野の関連情報のメディアでの発信 等

E-2. 能力活用機会の獲得

国際会議の開催にあたって、当該会議の準備活動やイベントに関与することで、持っている能力を発揮する機会が獲得できる

例: 語学ボランティアによる英語能力の活用 等

E-3. 地域に対する 誇りの醸成

国際会議開催の事実や、当該会議に関連する活動への参加を通じて、地域や社会に対する誇りが醸成される

例: 地元の特産品に誇りを感じる 等

E. 地元住民に対する効果の具体的なエピソード

E-1. 能力開発・視野拡大機 会の獲得

【第34回国際電波科学連合総会(札幌市)】

- ・小学生が電気を使わないラジオ作成体験を通じて学びを深めた
- ・電波・レーダー施設を視察し、仕組みを学んだ

【G7仙台科学技術大臣会合(仙台市)】

- ・子どもたちが**各国の国歌斉唱・秋保の田植え踊りを体験**し、学びとなった

E-2. 能力活用機会の獲得

【IBA & PIXE 2023(富山市)】

- ・過去の国際会議でボランティアとして参加した学生が**地元の案内を英語で実施**することができた

【G7茨城・つくば科学技術大臣会合(つくば市)】

- ・関連して開催した**中高生向けサミットは全て英語で実施**し、英語能力を活かす場となった



↑ 中高生向けサミットの様子

E-3. 地域に対する 誇りの醸成

【第11回アジア太平洋盆栽水石大会(高松市)】

- ・地元の方が高松市鬼無などの盆栽園を回る産地見学の受け入れや、大会のボランティア活動に参加し、**高松の伝統的な地場産業である盆栽を誇りに思う方が増加**した

【IBA & PIXE 2023(富山市)】

- ・外国人が集まるオープンな場所でのバンケットを見て、富山が**国際会議で有名な場所であると誇りに思える**方もいた



↑ 産地見学の様子

目次

1. はじめに	3
2. 国際会議の誘致・開催までの流れ	5
3. 国際会議の開催効果の分類	7
4. 効果の対象別レガシー効果	14
5. 各地方都市の代表的な国際会議開催効果のエピソード	
5-a. 札幌	26
5-b. 仙台	28
5-c. つくば	31
5-d. 富山	34
5-e. 岡山	36
5-f. 高松	38
5-g. 北九州	41

【事例①：第5回国際野生動物管理学会議】

催事の基礎情報	
名称	第5回国際野生動物管理学会議
分野	学術系
開催地	札幌市
主催者	日本哺乳類学会
参加者数	1,343名(国内: 992名、海外: 351名)
参加国数	46カ国・地域
開催時期	2015/7/26-7/30
概要	<ul style="list-style-type: none"> 「国際的に多様な文化と社会に対応した野生動物管理モデルの構築」がメインテーマ 札幌市の重点分野である野生動物との共生に関する課題解決を意図し、また、地元に関心のあるキーパーソンがいることから、誘致に乗り出した 野生動物の個体群動態と分布、生息地利用、被害管理、外来種対策、希少種保全、管理システムや野生動物管理の専門家育成などの主要課題について、社会の多様性を考慮しながら討議し、野生動物と共存するための方途を探ることを目的とした

催事による主なレガシー効果

A-1.

自然環境の
維持・改善

- 酪農学園大学と札幌市、及び北海道が、『生物多様性の政策提案に関する協定』を締結
- 協定により、外来種対策や野生動物管理に関する研究活動が市(環境局)の政策に展開され、継続中である



↑ 協定締結の様子

B-1.

知名度・ブランドの
強化・安定化

- 道内のNPOやNGO団体の活動紹介・市町村の地域産業を紹介するための出展ブースを用意
- 「北海道の野生動物に関するショーケース」として、約50のブースが出展できた

E-1.

能力開発・視野拡大
機会の獲得

- 高校生向けの特別シンポジウムを開催
- 道内20、道外4(秋田、大阪、福岡)の高校と1つの中学校から生徒が参加し、次世代に向けた同分野の学術振興に貢献できた

目次

1. はじめに	3
2. 国際会議の誘致・開催までの流れ	5
3. 国際会議の開催効果の分類	7
4. 効果の対象別レガシー効果	14
5. 各地方都市の代表的な国際会議開催効果のエピソード	25
5-a. 札幌	26
5-b. 仙台	28
5-c. つくば	31
5-d. 富山	34
5-e. 岡山	36
5-f. 高松	38
5-g. 北九州	41

【事例②：G7仙台科学技術大臣会合】

催事の基礎情報	
名称	G7仙台科学技術大臣会合
分野	政府系
開催地	仙台市
主催者	内閣府
参加者数	約90名(海外約50名)
参加国数	G7の7カ国+EU
開催時期	2023/5/12-5/14
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・「信頼に基づく、オープンで発展性のある研究エコシステムの実現」をメインテーマとして、地球規模の課題の解決に向けた科学技術協力の強化等について議論 ・G7科学技術大臣会合は、2008年の北海道洞爺湖サミット開催時に初めて沖縄県名護市で開催され、今回で9回目の開催となる ・公式エクスカージョンを実施し、市内被災地・科学技術関連施設の視察を行う他に、メディアセンターにおける仙台・東北のPR、仙台・東北の食や伝統芸能でおもてなしする「アキウナイト」、仙台駅で地場産品を紹介・発信するための物産フェアを開催した

催事による主なレガシー効果

A-2. 交通・都市インフラの充足

- ・安全・安心な環境の整備を行うため、会議に合わせて、会場周辺及び通行ルート上の道路の支障木伐採、道路舗装・区画線明示工事を行った

D-1. 知名度・ブランドの強化・安定化

- ・「アキウナイト」では、仙台牛やずんだ団子、秋保ワインなど会場産品提供によるPRができた
- ・2024年に稼働が予定されている次世代放射光施設「Nano Terasu」を視察いただくことで、科学技術を活用したまちづくりを進めていることがPRできた



↑ ずんだ団子

E-1. 能力開発・視野拡大の獲得

- ・秋保の幼稚園・小中学校の子供たちが各国の国歌斉唱
- ・ユネスコ無形文化遺産にも登録されている秋保の田植踊(ユネスコ無形文化遺産)を実施
- ・上記を通じて世界に目を向けるきっかけとなった



↑ 田植踊の様子

【事例③：磁気工学国際会議 (INTERMAG)】

催事の基礎情報	
名称	磁気工学国際会議 (INTERMAG)
分野	学術系
開催地	仙台市
主催者	IEEE Magnetics Society、 Magnetics Society of Japan
参加者数	海外1,000名以上 (過半数はアジア圏)
参加国数	N/A
開催時期	2023/5/15-5/19
概要	<ul style="list-style-type: none"> • 基礎および応用磁気学のすべての側面に関する主要な国際会議 • 仙台は世界クラスの磁気に関する研究施設の中心地であり、最先端であるため、本部から仙台での開催希望があった • 口頭発表やポスター発表、招待講演とシンポジウム、チュートリアルセッション、展示、東北大学の研究室を巡るラボツアー等がプログラムに含まれていた

催事による主なレガシー効果

A-3. 地元産業の活性化

- 地元での効果を期待し、仙台市の飲み屋街(国分町の稲荷小路)で特別メニューを提供していただいた
- バルの実施はローカルニュースでも取り上げられた



↑ バルのチラシ

C-1. 知名度・ブランドの強化・安定化

- 本会議の前に、特定のトピックの研究成果を議論するコミュニティが、新たにサテライトシンポジウム「集積磁気工学に関する国際会議 (iSIM 2023)」を開催した
- 上記は来年以降も継続予定である

C-2. 設備・人材基盤の強化・安定化

- 本会議で実行委員長をされた高梨弘毅教授をはじめ、関与した先生方の国際的なプレゼンスが向上し、次回開催地決定の委員会 (AdHoc委員会) に招待された

目次

1. はじめに	3
2. 国際会議の誘致・開催までの流れ	5
3. 国際会議の開催効果の分類	7
4. 効果の対象別レガシー効果	14
5. 各地方都市の代表的な国際会議開催効果のエピソード	25
5-a. 札幌	26
5-b. 仙台	28
5-c. つくば	31
5-d. 富山	34
5-e. 岡山	36
5-f. 高松	38
5-g. 北九州	41

【事例④：G7茨城・つくば科学技術大臣会合】

催事の基礎情報	
名称	G7茨城・つくば科学技術大臣会合
分野	政府系
開催地	つくば市
主催者	内閣府
参加者数	56名(各国・機関代表者)
参加国数	G7の7カ国+EU数カ国
開催時期	2016/5/15-17
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・地球規模課題の解決に向けた国際連携・協調を視野に入れた議論をする会合 ・官民一体となった「G7茨城・つくばサミット関係閣僚会合誘致推進協議会」を発足して議論を進める他に、海外の方を含めた視察ツアーも実施 ・機運醸成に向けチラシやポスターを配布し、テレビでも広報活動を行った ・関連して、ハイスクール科学技術サミットも開催し、「科学技術は人類を幸せにすることができるのか」について全て英語で議論した

催事による主なレガシー効果	
A-2. 交通・都市インフラの充足	<ul style="list-style-type: none"> ・G7の開催を機に、成田空港⇄つくばセンター間のシャトルバスを圏央道ルートに変更 ・上記により、大幅に時間短縮(これまでの約半分、55分程度)
B-2. 設備・人材基盤の強化・安定化	<ul style="list-style-type: none"> ・市内のホテル・旅館(ホテル日航つくば・ホテルグランド東雲など)のスイートルーム・貴賓室整備(計8室)を行った ・上記のために一部県の補助を受けることができた
E-1. 能力開発・視野拡大の獲得	<ul style="list-style-type: none"> ・G7開催記念シンポジウムに地元の方900名程度が参加し、交流する機会があった ・県内の小学校の給食で各国の料理が提供されたので、G7につながる学習ができた

【事例⑤：G20茨城つくば貿易・デジタル経済大臣会合】

催事の基礎情報	
名称	G20茨城つくば貿易・デジタル経済大臣会合
分野	政府系
開催地	つくば市
主催者	内閣府
参加者数	約300名
参加国数	G20の20カ国+招待国8カ国
開催時期	2019/6/8-6/9
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済・社会のデジタル化の進展に伴う、貿易とデジタル経済の課題に関して議論する会合 ・ 「G20茨城つくば貿易・デジタル経済大臣会合推進協議会」を発足し、各国の大使館向け現地説明会を実施 ・ 貿易大臣会合・デジタル経済大臣会合に向け開催された作業部会において、夕食会や会合の合間のコーヒブレイクで県産食材を用いた料理等をふるまい、茨城県の魅力をPR ・ 県内の高校生が大臣会合の中で、各国・機関代表者に対して「AIを活用したフードロス対策」に関する提言を行う

催事による主なレガシー効果

B-1. 知名度・ブランドの強化・安定化

- ・ 県内の最先端技術の集積、豊富な農林水産物等の魅力を海外にPRするため海外メディアを招待し、メディア向け視察ツアーを開催できた
- ・ いばらきグローバル商談会を開催し、外資系企業5社、海外バイヤー3社、訪日外国人旅行客取扱会社10社、県内企業等49社が商談を行った

B-3. 利益の増大

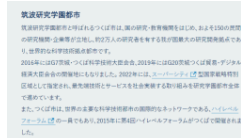
- ・ 浦里酒造店が、大臣会合に出品したことをPRに用いてチラシを作成し地元で販売している
- ・ 稲葉酒造が会合をきっかけに海外への輸出を始め、様々な賞を受賞。結果として売上が向上している



↑ 稲葉酒造が獲得した賞の一部

D-1. 知名度・ブランドの強化・安定化

- ・ 後の国際会議(Tsukuba Conference 2023)のHPで、G7、G20の開催地であることをPRできている



↑ Tsukuba Conference 2023のHP上でのPR

目次

1. はじめに	3
2. 国際会議の誘致・開催までの流れ	5
3. 国際会議の開催効果の分類	7
4. 効果の対象別レガシー効果	14
5. 各地方都市の代表的な国際会議開催効果のエピソード	25
5-a. 札幌	26
5-b. 仙台	28
5-c. つくば	31
5-d. 富山	34
5-e. 岡山	36
5-f. 高松	38
5-g. 北九州	41

【事例⑥：IBA & PIXE 2023】

催事の基礎情報	
名称	IBA & PIXE 2023
分野	学術系
開催地	富山市
主催者	「IBA / PIXE 2023 国際会議」実行委員会
参加者数	約300名（国内約100名、ヨーロッパ系が多い）
参加国数	35カ国
開催時期	2023/10/7-10/13
概要	<ul style="list-style-type: none"> イオンビーム分析、関連技術に関するアイデアや、X線分光法などの研究分野について議論する会議 県内に集積する半導体関連産業との親和性が高いことから、誘致を決定 開催期間中のエクスカージョンでは、開催地「富山」のコンパクトシティを体感してもらうため、移動手段を徒歩又は公共交通機関とした 中心市街地にある全天候型広場「グランドプラザ」でバンケットでは地元の飲食物を提供。伝統芸能「おわら風の盆」の披露や参加者の踊り体験など、地元を十分に実感していただけた

催事による主なレガシー効果

B-3.

利益の増大

- デパートに参加者向けのクーポンを提供いただき、飲食すると特典を得られるようにすることで売上を伸ばした

E-2.

能力活用機会の獲得

- 前回のG7教育大臣会合に参加していた地元の学生を改めて誘い、英語を話して地元を案内する機会があった



↑ 地元学生の案内

E-3.

地域に対する誇りの醸成

- 外国人が数百人集まってオープンな場でバンケットを実施
- 会場を見て、富山が国際会議で有名な場所であると誇りに思える方もいた






↑ 中心市街地でのバンケット会場

目次

1. はじめに	3
2. 国際会議の誘致・開催までの流れ	5
3. 国際会議の開催効果の分類	7
4. 効果の対象別レガシー効果	14
5. 各地方都市の代表的な国際会議開催効果のエピソード	25
5-a. 札幌	26
5-b. 仙台	28
5-c. つくば	31
5-d. 富山	34
5-e. 岡山	36
5-f. 高松	38
5-g. 北九州	41

【事例⑦：岡山城での懇親会プログラム】

催事の基礎情報	
名称	岡山城での懇親会プログラム
分野	N/A(共通プログラム)
開催地	岡山城
主催者	N/A
参加者数	N/A
参加国数	N/A
開催時期	N/A
概要	<ul style="list-style-type: none"> • 全国唯一、天守内で100人規模のレセプションを実施可能な懇親会プログラムを開発 • 岡山市でMICEを開催する際は、岡山城天守内を懇親会会場とする他、懇親会前に岡山城周辺のカルチャーゾーンや、主にミュージアムになっている天守内を散策する時間を設け、参加者に日本・岡山の文化に触れる機会を提供できることが魅力である • 懇親会で提供される岡山の「地のもの」を使い、岡山の食文化や日本地域ごとの食文化の違いについても触れる機会があることや懇親会中に甲冑体験を通じて日本の歴史・文化に直に触れる機会があることが非常に好評である

催事による主なレガシー効果		
B-1. 知名度・ブランドの強化・安定化	<ul style="list-style-type: none"> • 懇親会での食事は、任意のケータリング業者を利用可能 • 岡山名物のばら寿司をはじめ、様々な岡山県産の食材が提供可能なホテルを紹介 • 上記は地場産品のPRにつながっている 	 <p>↑ 天守での懇親会</p>
E-1. 能力開発・視野拡大 機会の獲得	<ul style="list-style-type: none"> • 甲冑や忍者の衣装を着た人が会場で参加者を出迎えるアトラクションを提供可能 • 懇親会中に甲冑着付け体験ができるスペースを提供し、写真撮影が可能 • 上記は日本の歴史・文化を学ぶ機会となっている 	 <p>↑ 甲冑を着る体験</p>
E-3. 地域に対する誇りの醸成	<ul style="list-style-type: none"> • 国の重要無形民俗文化財に指定されている「備中神楽」の保存伝承を目指し、活動している • 地元県民がアトラクションとして県外・海外の参加者に披露することで誇りを感じている 	 <p>↑ 備中神楽</p>

目次

1. はじめに	3
2. 国際会議の誘致・開催までの流れ	5
3. 国際会議の開催効果の分類	7
4. 効果の対象別レガシー効果	14
5. 各地方都市の代表的な国際会議開催効果のエピソード	25
5-a. 札幌	26
5-b. 仙台	28
5-c. つくば	31
5-d. 富山	34
5-e. 岡山	36
5-f. 高松	38
5-g. 北九州	41

【事例⑧：第11回アジア太平洋盆栽水石大会】

催事の基礎情報	
名称	第11回アジア太平洋盆栽水石大会
分野	文化
開催地	香川県高松市
主催者	アジア太平洋盆栽水石大会高松実行委員会 (地元生産者等から構成)
参加者数	登録者数: 974名(海外: 625名) 一般来場者数: 約7.6万人
参加国数	28カ国
開催時期	2011/11/18-11/21
概要	<ul style="list-style-type: none"> 世界中から盆栽・水石のバイヤーや愛好者らが参加する国際会議で、1991年にインドネシア・バリ島で第一回が開催されて以来、2年に1回、アジア各国で開催。盆栽の町・高松として誘致に成功し、2011年の高松大会が日本で初めての開催となった アジアだけでなく、欧米諸国の国々も参加する、盆栽と水石の実演と展示では世界最大の国際大会 開催期間中、開催会場では、日本を代表する盆栽作家らによる盆栽のデモンストレーションや講座、ワークショップ等の他、盆栽のオークション、産地見学、栗林公園のライトアップ等が開催された

催事による主なレガシー効果

A-3.

地元産業の活性化

- JETROが高松盆栽の輸出拡大に向けた地元生産者向け商談会を定期的で開催し、海外販路開拓に取り組む
- 2013年には高松盆栽輸出振興会を設立し、海外ニーズに対応する等により、販路を拡大している

D-2.

MICE誘致・開催のノウハウ蓄積

- 埼玉での盆栽の世界大会(第8回世界盆栽大会inさいたま2017)の誘致のきっかけに繋がる



↑さいたまでの盆栽大会の様子

E-3.

地域に対する誇りの醸成

- 地元の方が高松市鬼無、国分寺と盆栽園を回る産地見学の受け入れや、その他大会のボランティア活動に参加
- 上記活動を通じて、高松の伝統的な地場産業である盆栽を誇りに思う方が増加した



↑産地見学の様子

出所)「第11回アジア太平洋盆栽水石大会」(四国新聞社),
「第8回世界盆栽大会inさいたま」が開催されました」(さいたま市).

【事例⑨】：G7香川・高松都市大臣会合】

催事の基礎情報	
名称	G7香川・高松都市大臣会合
分野	政府系
開催地	高松市
主催者	国土交通省
参加者数	167名(国内:99名、海外:68名)
参加国数	G7の7カ国+EU等
開催時期	2023/7/7-7/9
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・「持続可能な都市の発展に向けた協働」をテーマとして、「ネットゼロ、レジリエンス」、「インクルーシブ」、「デジタル」等の今日的な課題について議論する会合 ・2016年「G7香川・高松情報通信大臣会合」の開催を契機として「香川県MICE誘致推進協議会」を立ち上げ、官民一体で誘致に取り組む ・開催決定後、香川県、高松市及び地元団体等で構成する「G7香川・高松都市大臣会合推進協議会」を設立し、国土交通省と連携しながら会合の準備を行う ・会合の成果として、コミュニケと香川・高松原則が取りまとめられた

催事による主なレガシー効果

A-2. 交通・都市インフラの充足

- ・高松港フェリー乗り場待合所等のベンチの更新、キッチンテレーラを利用したカフェの設置、都市景観発見クルーズの実施などを行った



↑リニューアルしたベンチ

B-1. 知名度・ブランドの強化・安定化

- ・会合の参加者に対するおもてなしの一環として、香川県・高松市主催歓迎レセプションを実施
- ・県産食材を使用した料理、お酒、地元団体によるアトラクション、展示を提供し、魅力を伝えた



↑歓迎レセプションの様子

E-1. 能力開発・視野拡大の獲得

- ・会合のテーマに関連した事業(シンポジウム、学生サミット、コンテスト等)を実施
- ・上記により参加者の学びを深めることができた



↑たかまつマイクラフたまちなみデザインコンテストの様子

目次

1. はじめに	3
2. 国際会議の誘致・開催までの流れ	5
3. 国際会議の開催効果の分類	7
4. 効果の対象別レガシー効果	14
5. 各地方都市の代表的な国際会議開催効果のエピソード	25
5-a. 札幌	26
5-b. 仙台	28
5-c. つくば	31
5-d. 富山	34
5-e. 岡山	36
5-f. 高松	38
5-g. 北九州	41

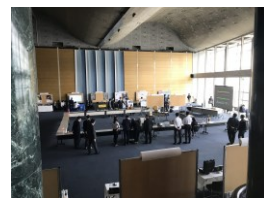
【事例⑩：CMD2022】

催事の基礎情報	
名称	CMD2022
分野	学術
開催地	北九州市
主催者	九州工業大学
参加者数	212名(海外:97名、国内:115名)
参加国数	20カ国
開催時期	2022/11/13-11/18
概要	<ul style="list-style-type: none"> 電力機器・設備の状態監視と診断(プラント・生産材の疲労度・摩耗度を非接触で測定する技術)に関する国際会議 地元の九州工業大学の、設備診断に特化した研究をしている教授に地元への利益につながることを理解していただき、開催のモチベーションを高めることで誘致・開催に至った 会場内のデモンストレーションコーナーでは、中央の監視対象の電力機器(主催者が準備した異常を模擬発生させる実験機器)の周りに14社の企業が診断装置を設置し、実際の動作状況を参加者に示した

催事による主なレガシー効果

B-1. 知名度・ブランドの強化・安定化

- ・ブースに出展した地元企業は測定方法を見せることができた
- ・技術力のアピールができ、主催者と一体となったビジネスマッチングが進んでいた



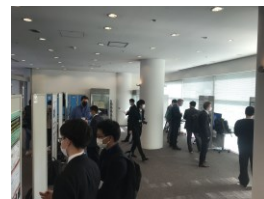
↑デモンストレーションの様子

B-2. 設備・人材基盤の強化・安定化

- ・各社独自の非公開技術を用いた異常を探知する仕組みについて、互いにオープンに議論し、技術の向上や新たなアイデアの検討につなげることができた
- ・出展した地元企業は、本会議のローカルホストである教授にアポイントを取って研究室を訪れ、機器の開発にアドバイスを求めている

E-1. 能力開発・視野拡大の機会獲得

- ・SICE(計測自動制御学会)の会員である研究者の方も多く参加されていた
- ・地元の大学の学生は研究成果を発表・交流することによって知見を高めていった



↑ポスターセッションの様子

【事例⑪】：Global Offshore Wind Summit Japan 2023】

催事の基礎情報	
名称	Global Offshore Wind Summit Japan 2023
分野	学術
開催地	北九州市
主催者	日本風力発電協会 (GWEC)、 Global Wind Energy Council
参加者数	約700名 (国内: 約590名、海外約110名)
参加国数	22カ国
開催時期	2023/10/11-10/13
概要	<ul style="list-style-type: none"> 洋上浮力発電に対する知見を高め、日本における洋上風力の未来を考察することを目的とした国際会議 日本は洋上風力発電をはじめとした自然エネルギーの高い需要、それを支える強力な基礎技術・産業力を備えている。また、九州工業大学が風力発電の研究が盛んであり、北九州には「響灘洋上ウインドファーム」があることから、開催地として選出された 会議中、大使館単位の展示やスポンサー中心の展示、地元の自治体の展示、関連分野の商談が行われていた

催事による主なレガシー効果

- A-3. 地元産業の活性化**
 - 洋上風力発電に必要な機材、装置を北九州市内で製造から設置まで可能なことをアピール
 - 優れた基礎技術を持ちながらも、参入をためらっていた地元の中小企業への新規参入に弾みをつけることになった

- B-1. 知名度・ブランドの強化・安定化**
 - 記念品として、地元企業のレアメタル抽出に関する高度な技術を用いた金の「しおり」を配布し、北九州の持つ技術力をアピールできた
 - 「しおり」は事務局に対して製造方法や単価等問い合わせがくる程、関心度が高いものであった

- E-1. 能力開発・視野拡大**
 - 地元の学生が洋上風力のプロとの議論を通じて学びを深めることができた
 - 電磁波に対する懸念も大きかったが、電磁波を実際に体験可能なブースを展開することにより、洋上風力に関する地元住民の理解促進につながった